

水稻の作柄に関する委員会（平成24年度第2回）の意見

1 9月15日現在調査以降の気象の推移・予報等からみた作柄への影響

- (1) 8月中旬以降、気温はほぼ全国的に平年を上回って推移しており、特に北・東日本では8月下旬から9月中旬にかけて記録的な高温となった。また、日照も西日本の一部を除き平年を上回って推移した。

10月前半の天候の見通しでは、平均気温において北日本では高い、東日本で平年並みかまたは高い、西日本では平年並みと予想されている。

- (2) このような気象の推移・予報からすると、登熟はおおむね順調に推移するものと見込まれるが、異常な高温が続いた地域、台風が接近・上陸した地域及び8月中旬以降も日照が平年を下回っている地域では登熟や品質への影響が懸念される。

2 次回の調査（10月15日現在）に当たって留意すべき事項

- (1) 登熟期が高温で推移した地域においては、登熟期間短縮の程度と、登熟や品質への影響に留意する必要がある。
- (2) 日照が平年を下回る状態の地域においても、登熟や品質への影響に留意する必要がある。
- (3) 台風及び集中豪雨による作柄・品質への影響に留意する必要がある。
- (4) トビイロウンカや穂いもち等の病虫害が登熟や品質に及ぼす影響に留意する必要がある。

水稻の作柄に関する委員会委員

（座長） 染 英 昭 公益財団法人中央果実協会副理事長

黒 田 栄 喜 国立大学法人岩手大学農学部農学生命課程教授

中 園 江 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター
情報利用研究領域主任研究員

長 谷 川 利 弘 独立行政法人農業環境技術研究所大気環境研究領域上席研究員

平 澤 正 国立大学法人東京農工大学大学院農学研究院教授

藤 川 典 久 気象庁地球環境・海洋部気候情報課予報官

山 岸 順 子 国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構准教授